

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	七飯町アイヌ文化振興事業
2 事業の種類	文化振興事業、地域・産業振興事業
3 事業の目的	<p>七飯町は、道南エリアの中核市「函館市」に隣接する自治体としてアイヌ文化の振興やアイヌの伝統に関する知識の普及や啓発を図る。          なお、実施にあたっては、幅広い年齢層への啓発を鑑み実施する。</p>
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業          アイヌ伝統文化振興事業          ○事業実施主体 七飯町          ○事業の実施場所 七飯町文化センター          ○事業の実施期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日          ○事業の内容と考え方          北海道内のアイヌ協会の協力により、伝統楽器演奏や古式舞踊の披露についてのイベントを行うとともに、アイヌ文様刺繍やアイヌ伝統料理などの町民向けのアイヌ伝統文化体験講座を行う。          令和5年度は1回、次年度以降は年2回、実施する。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業          ①「イランカラプテ音楽祭 in ななえ」開催事業          ○事業実施主体 七飯町          ○事業の実施場所 七飯町文化センター          ○事業の実施期間 令和5年11月          ○事業の内容と考え方          町民や町を訪れる人々にアイヌ関連の音楽や舞踊を通じてアイヌ文化を親んでもらうために、過去、道内各地で実施されたイランカラプテ音楽祭を開催する。</p>
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	<p>4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業          ●アイヌ伝統文化振興事業          七飯町文化センターにおいて、北海道内のアイヌ協会の協力により、伝統楽器の演奏や古式舞踊の披露についてのイベントを行うとともに、アイヌ文様刺繍やアイヌ伝統料理などの町民向けアイヌ伝統文化体験講座を行う。令和5年度は1回（道央のアイヌ文化）、次年度以降は年2回（道央のアイヌ文化と道北・道東のアイヌ文化）、実施する。</p> <p>4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業          ●「イランカラプテ音楽祭 in ななえ」開催事業          町民及び町を訪れる人々にアイヌ関連の音楽や舞踊を通じてアイヌ文化を親んでもらうために、過去、道内各地で実施されたイランカラプテ音楽祭を開催する。七飯町のアイヌ施策を推進するために、基準年度（令和5年度）に実施する。</p>

6 事業の成果目標等	
<p>(1) 成果目標達成に向けた工程</p>	<p>(1) 文化振興事業 アイヌ伝統文化振興事業 アイヌ文化に関する情報を発信し、町民のアイヌ文化に対する理解を促進する事業であり、アイヌ伝統文化振興事業への参加者が増えるほど効果が高まると考えられる。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業 ①「イランカラプテ音楽祭 in ななえ」開催事業 アイヌ関連音楽祭開催による観光プロモーションを実施することで、来場者へアイヌ文化を親しんでもらうとともに、アイヌの人々が民族としての誇りをもって生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図る事業であり「イランカラプテ音楽祭 in ななえ」の来場者が増えるほど効果が高まると考えられる。</p>
<p>(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)</p>	<p>(1) 文化振興事業 アイヌ伝統文化振興事業参加者数 (当初目標) 令和5年度 50人/年 (中間目標) 令和7年度 100人/年 (最終目標) 令和9年度 100人/年</p> <p>(2) 地域・産業振興事業 「イランカラプテ音楽祭 in ななえ」来場者数 (最終目標) 令和5年度 1,000人</p>
<p>(3) 成果目標の確認方法</p>	<p>KPIである、アイヌ伝統文化振興事業、「イランカラプテ音楽祭 in ななえ」、に係る来場者数については実績値を公表する。また、事業担当課以外の町管理職員で構成する評価委員会により、目標の達成状況等について検証する。</p>

7 地域の概要

<p>(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p>	<p>道南エリア（北海道の南部エリア）は、松前藩の統治や北海道の近代化のイメージが強いため、アイヌ文化が根付いている地域とは言い難い。七飯町においても、アイヌの人々が生活していた様子を確実に伝える記録物が乏しい。しかし、今に残るアイヌ語の起源の地名や近世の風俗画、明治時代に撮影された蓴菜沼の風景写真に、アイヌの人々の生活を垣間見ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・七飯：ナア・ナイ（いくつも・川）、ヌ・アン・ナイ（豊漁・ある・川）</li> <li>・大沼：ポロ・トー（大きな・水たまり）</li> <li>・横津：ユク・オツ（鹿・たくさんいる）</li> <li>・峠下：ラン・ポク（峠・下のほう）</li> <li>・軍川：いくさがわ→「イクサンダ」というアイヌ酋長が住んでいた。</li> </ul> <p>また、アイヌに関する文献として「七飯町史」や七飯町歴史館が発行した「七飯町の伝説」にもアイヌに関する記述がある。</p> <p>和人が道南エリアに移り始めたのは、12、13世紀からである。15世紀に入ると、和人の鍛冶職人がアイヌの少年を刺殺したことをきっかけに、コシヤマインの戦いが起こった。渡島半島東部の酋長コシヤマインを中心とするアイヌが蜂起し、和人を大いに苦しめたが、最終的には現在の七飯町の南（北斗市七重浜）でコシヤマインが戦死し、和人が戦いを制した。この戦いで、七飯町城岱に砦を構えてコシヤマイン軍と戦ったのが相原政胤である。</p> <p>政胤の子である季胤の代になると、他の和人（蠣崎光広）の謀略により再びアイヌが蜂起し、相原季胤はアイヌに攻撃され、滅亡した。この時、季胤は白馬に乗り二人の姫と共に七飯町の大沼まで逃げたが、アイヌ軍に追いつかれ、二人の姫とともに大沼に身を投げた。主人を失った愛馬は、湖岸で嘶きながら内浦岳のほうへ消えた。そのことから、内浦岳を駒ヶ岳と呼ぶようになったという伝説がある。この他にも「源義経とえぞが島の火」「熊の湯のおこり」などアイヌの伝説は七飯町には残っている。</p> <p>七飯町にはアイヌ協会はないが、アイヌ関連の史実や伝説が多く残されており、町民や町を訪れる人々にアイヌ文化に対して理解してもらい取り組みを積極的に行い、道南エリアとしてアイヌ文化に愛着を持ち、アイヌの人々が誇りを持って生きることができる社会を実現することが重要である。</p>
<p>(2) 施設等の管理運営体制</p>	<p>七飯町文化センターは七飯町（教育委員会）、大沼国定公園広場は、北海道が管理している。</p>
<p>(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制</p>	<p>七飯町にはアイヌ関係団体はないが、事業を実施するにあたり協力が不可欠である一般社団法人七飯大沼国際観光コンベンション協会役員等と意見交換を行っている。</p>

## 8 収支予算

## (1) 収入の部

(単位：円)

区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	8,332,000	0	8,332,000	0
市町村負担金	2,083,000	0	2,083,000	0
計	10,415,000	0	10,415,000	0

## (2) 支出の部

(単位：円)

区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
文化振興事業	1,430,000	0	1,430,000	0
・委託費	1,430,000	0	1,430,000	0
地域・産業振興事業	8,985,000	0	8,985,000	0
・委託費	8,985,000	0	8,985,000	0
計	10,415,000	0	10,415,000	0